

出演者ご紹介

柳家 喬太郎

[やなぎや きょうたろう]

- 1963年 東京都生まれ。
- 1989年 柳家さん喬に入門し、柳家さん坊を名乗る。
同年、新宿末廣亭にて初高座。
- 1993年 ニツ目昇進。柳家喬太郎と改名。
- 2000年 真打昇進。
- 2005年 国立演芸場花形演芸大賞 大賞を受賞。
- 2006年 文化庁芸術選奨 文部科学大臣新人賞受賞。
- 2007年 国立演芸場花形演芸大賞、3年連続受賞を達成。



多彩な新作落語を数多く生み出し、高度な演技力で聴く者を一瞬にして引き込む力をもつ新作落語の旗手。さん喬師匠のもとに入門した後は、古典落語に取り組みながら新作にも情熱を傾け、真打昇進後には春風亭昇太らと創作落語ユニット「SWA」を旗揚げ。メンバー同士でネタの研鑽に取り組む。代表作の「純情日記シリーズ」をはじめ、「すみれ荘201号」「夜の慣用句」「寿司屋水滸伝」などこれまでに数多くの作品を口演。

また古典落語の本流を歩んだ師匠にならい、古典落語の発掘や明治の名人・三遊亭円朝が残した大作にも積極的に挑んでいる。古典と新作の両方をバランスよくこなせる嘶家の一人である。映画「スプリング、ハズ、カム」「浜の朝日の嘘つきどもと」、ドラマはTBS「妻、小学生になる」、舞台はこまつ座「たいこどんどん」、ペテカン「ハンバーグができるまで」、東京タンバリン「さとうは甘い」等にも出演。

入船亭 扇辰

[いりふねてい せんたつ]

- 1964年 新潟県生まれ。
- 1982年 新潟県立長岡高校卒業國學院大學文学部入学。
- 1989年 九代目入船亭扇橋に入門、前座名「扇たつ」。
- 1993年 ニツ目昇進「扇辰」と改める。
- 1999年 にっかん飛切り落語会 努力賞受賞。
(2年連続受賞)
- 2001年 にっかん飛切り落語会 奨励賞受賞。
- 2002年 真打昇進。
- 2006年 国立演芸場花形演芸大賞 銀賞受賞。
- 2008年 国立演芸場花形演芸大賞 金賞受賞。



2日目

昼
公演

林家 彦いち

[はやじや ひこいち]

- 1969年 鹿児島県生まれ。
- 1989年 国士館大学文学部を中退後、
初代林家木久藏(現 木久扇)門下に入門。
- 1993年 ニツ目昇進。
- 2000年 NHK新人演芸大賞受賞。
北とぴあ若手落語家競演会 北とぴあ大賞受賞。
- 2002年 真打昇進。
- 2003年 林家彦六賞 受賞。
- 2006年 彩の国落語大賞 大賞受賞。



2日目

夜
公演

三遊亭 白鳥

[さんゆうてい はくちょう]

- 1963年 新潟県生まれ。
- 1987年 三遊亭圓丈に入門。前座名はにいがた。
- 1990年 ニツ目に昇進、三遊亭新潟となる。
- 1992年 ニッポン放送主催
「第7回お笑いゴールドラッシュ」優勝。
- 2001年 真打昇進。白鳥と改名。
- 2005年 彩の国落語大賞を受賞。



3日目

昼
公演

1989年、25歳で入船亭扇橋に入門し、2002年に真打昇進。滑稽噺や人情噺を中心に古典落語に取り組み、登場人物を生き生きと描き出す描写力に定評がある。独演会や「扇辰日和」などの定期落語会をはじめ、地域の落語会にも積極的に出演。橋家文蔵と柳家小せんと3人で「三K辰文舎」(さんけいしんぶんしゃ)というバンドを組み、扇辰はキーボード・ギターを担当。落語&ライブスタイルでの高座も好評だ。また、NHKドラマ「昭和元禄落語心中」の落語指導を担当した他、2018年11月には欧洲ツアー凱旋公演を盛況に收めるなど、嘶家らしく、嘶家ぶらず、いい落語を演じていきたいをモットーに活躍中である。夫人は、映画「千と千尋の神隠し」の主題歌でも有名な作詞家で詩人の覚和歌子さん。

初代林家木久藏(現・木久扇)へ入門。

2002年に真打昇進。現在までに数々の賞を受賞し、古典・新作問わず数多く手がける傍らで、海外での英語で落語会にも精力的に参加。またSWA(創作話芸アソシエーション)のメンバーとして、落語ブームの一端を担う。仕事隙間を縫って渓流での釣り、アウトドアは好きが高じて八ヶ岳の「彦いち農場」で畠仕事。鞆好きも高じて「彦いちの鞆」「袖なり鞆」(小学館集英社プロ)を制作。

また、世界の秘境や奇祭(ユーコン川、バイカル湖、シルクロード、南米、エベレストBC等)へ足を運び廻りスライドショーにする筋金入り。嘶家としてのネタ造りに余念がない。自作の落語「ねっかつ怪談部」(あかね出版)、「長島の満月」(小学館)が絵本化されている。

高校はラグビー、大学は空手とスポーツに明け暮れる一方、大学時代は「童話絵本研究会」に所属。それまで落語との接点はなかったものの、三遊亭圓丈がテレビで新作落語を演じているのを見て、入門を決める。真打昇進落語会を東京・紀伊国屋サザンシアターで開催した時には、立見ができるほどの大盛況を収める。古典落語からオリジナルの新作落語まで幅広く演じ、特に新作落語は「砂漠のバー止まり木」「任侠流山動物園」「青春残酷物語」など、100本以上の作品を作りだしている。2004年には新作落語をさらに発展させるべく、仲間たちとSWA(創作話芸協会)を発足。さらに紙芝居落語やホラー落語など、新たな取り組みにも次々とチャレンジしている。古典落語にもその想像力は生かされ、独自の視点で再構築。「異才」と称される構成力には定評がある。2011年には、初の小説「ギンギラ落語★ボーイ」(論創社)を出版。また、子供たちへの落語教育に力を注いでおり、1人で全国の中学校に独自の落語教育を実地している。